

愛媛県神道青年会々報

第1号

後 松山市道
地 桜谷町17番
内 愛媛県神社庁

編集委員

敏 和 敏
宏 貞 宏
清 家 宏

電話 松山 27875

御挨拶

愛媛県神道青年会々報 和田 将 信

祝 辞

愛媛県神社庁長 三 島 安 久

愛媛県神道青年会々報の創刊を心よりお慶び申し上げます。

本県に青年神職諸君の団体である神道青年会が結成されたのは十数年前の事と記憶しておりますが、同時期に発足をみた四国各県の青年会の活動を風聞するにつけても本県神青会活動の低調を悲嘆されておられたのは私一人ではなかったと存じます。ところが一昨年春、先に発足した青年会を母胎とする新しい青年会が神社庁舎の一隅に於て産声をあげたのであります。再興を強く願う一人として、しかも神社庁長として、明日の愛媛県神社界を荷負う若人の会の誕生に関係致しました事は何よりも嬉しく存ずるものです。

道後の霊水で産湯を使った新生「愛媛県神道青年会」の斯界に於ける活躍ぶりは拙筆を以て御紹介するまでもない位に大きく、たくましく育ちつつあります。先年の「一日神社本庁」「全国神社総代会」等が盛会裡に、しかも大きな成果を収め得た蔭には、この青年会の大きな功績をぬきにしては考えられぬ程です。しかし、その活動の真姿は周知せられてないように思うのであります。

この時にあたり会報が誕生致しましたことは大変意義あることと存じます。青年会活動の実態を正確に伝達する機関紙として、その発刊をお祝すると同時に県下神職各位におかれましては本紙を通じて青年会の諸事業に対し理解を深められる事が、愛媛県神社界の一段の発展につながるものと確信致します。重ねて会員諸兄の一段の活躍を希望致します。

本会結成以来懸案になっておりました会報を皆様におとどけ出来ることになりました。第一号として今日までの青年会の活動について御報告申し上げ、今後の御協力をお願い致します。

昭和四十七年残暑厳しく八月に松山市伊予鉄会館で、神社庁長さんをはじめ神青協、四国各県神青会長又本県の諸先輩多数の御出席のもとに結成され、以来活動方針に基づき活発な活動を進めて、この一年六ヶ月の間には、神社庁に対し一日神社本庁、全国氏子総代会に全面的に協力致しました。対内活動では四国四県神青大会を成功させ、教化面では初詣ポスター及び格言ポスターの発行、教養面では祭式講習、県下各神社への大祭助務奉仕等々の成果を上げる事が出来ました。これ偏に会員諸兄の努力の賜であると感謝申し上げますと共に、我々が常に問題としていた資金の面で各神社宮司様方から暖かい御支援を頂き併せて御礼申し上げます。

愛媛県は横に広く奥に深い地形のため、会を開催するにも一日がかりであり、会員も兼職者が多く、今後の活動に大変な無理を感じ、本年よりブロック会を組織し、その中で多くの会員が人間的な触れ合いの中で進んで活動に参画し、会員同志が相互の関係を保ちつつ、その組織を通してめまぐるしく変化して行く情報化社会にあって、その時代の動きを敏感に掴み対処していきたいと考えます。

この会報を通して神道青年会組織の充実と活動の円滑を計るために会員相互の意見交換の場として御利用いただきたい。又本年度から各委員会を設置しそれぞれの分野で活動を展開します。特に教化面の活動については青年会の全力を尽す考えであり、神社庁からもこの活動に対して多額の助成金を頂きました。このことは活動を展開して行く上に資金的な面は勿論、それ以上に神社庁の積極的な後押しにより、大きな自信と勇気を持たせて呉れました。これに報いるためにも今までの以上の仕事をしなければならぬと考えます。

以上会報の発行に当り一年六ヶ月の報告と今後の活動方針を申し述べ、会員諸兄をはじめ先輩各位の御協力をお願い申し上げます。

本部

副会長 十亀 興 美

昨年九月九日に第二回総会を開催し、本年度の事業計画が別記の通り決定された。昨年度は発足初年に組織固めに重点を置き、種々の機会を捕えて活動しつつ促進を図った結果、県下青年神職の約半数が賛同して参加され、同時に初年度の事業計画も会員各位の協力と神社庁他関係各方面の援助を得てほぼ初期の目的を達成することが出来た。

本年度に於いては、更にこの基盤に立って活動を進める為、慎重に事業計画を審議し、併せて会員の積極的な参加を促すと共に、会の機能の円滑化の為、事業、広報、教化、調査の各委員会を設置し、業務を分担することにした。我々は本会の事業を消化しつつ神社界の現状を把握し、神社界、時に青年神職が当面している問題、或は今後に考えられる問題点を事的大小に捉われず提起して考究実践し、関係各方面の協力と理解を得てその対策と解決に力を注ごうとしている。現在、青少年層の宗教への無関心が問題視される時、社会や政治への関心を持つと共に神社人としての見識を高め、敬神崇祖の道の実践の為、先ず身近な問

題を共同のテーマとして、相互理解と啓発により本会の目的に向って前進したいものである。

事業委員会

委員長 三輪田 元 亮

今年から各委員会で活動する事になり、不肖事業委員会を担当する事になりました。先は会員諸兄の御協力をお願い致します。当委員会は過去二回発行している初詣ポスターの複製と発送、その他広く神社神道、或はその行事の啓蒙を促すような人生儀礼の葉(パンフレット)の複製などを主に担当することになりました。その作業は、これまで事務局で企画し、会員有志の奉仕によって進められてきましたが、時間的、肉体的にも大変な事であったと思えます。

ところで委員会制となっても会員多数の参加がなければ、却って細分化による弱さを露見し、本来の目的である「組織の充実」も望めないし、作業を遂行することが出来なくなりす。殊に神青会々員が県下全域に及んでおり、本務・兼務の違いもあって、更に時間的にもなかなか難しいものです。事業委員会を担当したものの、前途多難は必定といった思いで各々の立場で意見もある事と思

います。神青会が各委員会を中心に活動していこうという事は一つの前進であると考えます。一つの事を通してより友情を深め、広く話合の場としたいものです。

教化委員会

委員長 長曾我部 延昭

我々青年神職が今出来る現実的な教化活動となると、己自身の教化が最も重要と思えます。此の事は本人の自覚以外、其の手段を見つけ得ません。そこで私は各神社で「氏子青年会」を発足させる事を考えてみたと思えます。氏青発足に当っては、当然我々自身、神社をとりまく数々の問題に直面すると思えます。例えば、神社とは一体何の為に有るのか、其の中にいる神主とは一体何をす

る為にいるのか、神道の思想、日本人は一体どの位、神主を必要としているのか、必要としている人がいるなら、どう答えればよいのか、等々。吾等の祖先は天皇を現人神と仰ぎ奉り、天照大御神を其の御祖神と尊み奉り、全国津々浦々に鎮座まします神を氏神と崇め奉って、共同社会の拠り処とすると共に、個々の人達は其の魂の安息所として神社を護持し続けて来ました。しかし現代社会に生きる多数の若

者は、時の流に掉して伝統を否定し、神の權威を冒瀆し、古い物全てを「ナンセンス」の一言で否定し、過去を知らずして現代を談じています。しかし少数ではありませんが、我々の心を、日本精神文化の母胎となつて来た神道の心を知る青年もすぐ隣に、又友人達の中に必ずいる筈です。明治の維新回天の偉業を成し上げたのは青年です。青年の純な心、そのエネルギー、行動力は昔も今も変わりないと思

います。青年の力を組織化する為に自ら行動し、又行動する事により人と人の交わりも出来、自身の教化にもなると思えます。少くとも我々が神主を志した時は、我々神主でなければ出来な、又神主であるからこそ出来る何かを求めた筈です。日本人の心が、精神が、麻の如く乱れている今日こそ、我々青年神職が、「日本精神文化の再発見」をスローガンに立てるべき時と信じます。

調査委員会

委員長 星 野 暢 廣

組織における調査は、人間の五感に相当すると思う。虫ですら、触角をのばし前途を調べながら進む。調査は活動に当って欠くべからざるものである。調査は正確性を要求されることは言を待たない。アンケート調査をしても、100%の回収が出来るとは限らない。答えをしたくない人々が居て、しかもその人々の部分に本当の問題点が内蔵しているのであれば、このアンケート調査は費用の無駄使いとなる。さらにこの不正確なアンケートの集計を資料として使用すれば、大きな判断の誤りをおかす事となる。かりに100%の回収が出来たとしても、解答者が自分に有利なように誇張した答えをするようなことがないとも限らない。実際の姿を把握するための調査は非常に難しい。さて、神道の信仰そのものに重点を置いた調査も必要であろうが現在の我々には、荷が重過ぎる。そこで当面の目的は、神職の生活や活動を中心とした神社運営上の諸問題といったような言わば外面的な方向の調査から入る事となると思う。

問合せ
入会申込
会費納入

☆年一金式千円也

十亀興美宛連絡下さい。

昭和四十七年度本会への
寄付助成者名簿

自 七月一日
至 六月三十日

☆一金五万円也

大山祇神社 越智郡

石鏡神社 西条市

伊予豆比古命神社 松山市

☆一金参万円也

和霊神社 宇和島市

☆一金壹万円也

清家 貞雄 八幡浜市

一金壹万円也

石川 梅蔵 西条市

真鍋 惺四郎 宇摩郡

田窪 多理甫 今治市

☆一金八千円也

久保田 凸凹丸 宇和島市

☆一金七千円也

宮原 浄人 越智郡

☆一金五千円也

平田 茂光 越智郡

北宇和支部 今治市

鴨頭 舎興 宇摩郡

矢野 文雄 越智郡

阿部 義文 越智郡

河上 勝徳 越智郡

神田 三雄 宇摩郡

沼崎 嘉吉 今治市

別府 寿昭 今治市

高田 周蔵 今治市

合田 正良 新居浜市

伊佐 芹政雄 東予市

矢野 正実 西条市

近藤 恒雄 宇摩郡

和霊神社 宇和島市丸の内

南予護国神社 宇和島市

☆一金四千元也

豊田 栄年 周桑郡

☆一金参千元也

田窪 吉重 越智郡

真鍋 次郎 東予市

池内 克水 越智郡

辻田 盛雄 上浮穴郡

常磐井 有実 大洲市

☆一金貳千元也

赤尾 亀太郎 越智郡

矢野 峯義 新居浜市

小池 稜威雄 越智郡

十亀 喜代太 周桑郡

二神 計了 温泉郡

土居 重喜 上浮穴郡

大野 直康 北宇和郡

藤原 裕博 越智郡

馬越 千秋 越智郡

越智 種明 越智郡

矢野 伊勢雄 越智郡

☆一金壹千円也

和氣 須賀雄 伊予郡

名本 勲滋 喜多郡

水口 敏雄 北宇和郡

芥川 利夫 越智郡

波頭 倭文字 越智郡

昭和四十八年度本会への
寄付助成者名簿

自 七月一日
至 一月三十日

☆一金五万円也

大山祇神社 越智郡

☆一金壹万五千元也

今城 正森 東宇和郡

☆一金壹万円也

石川 梅蔵 西条市

石丸 金吾 西条市

石鏡神社 豊友会 西条市

近藤 恒雄 宇摩郡

☆一金七千円也

星野 満広 伊予郡

☆一金五千円也

越智 大介 宇和島市

矢野 文雄 宇摩郡

堀 晴夫 松山市

菅 義彦 今治市

久保田 照行 伊予郡

久保田 巖 伊予郡

柳田 三雄 宇摩郡

辻田 盛雄 上浮穴郡

土居 眞一 上浮穴郡

☆一金四千五百円也

宇和海支部

☆一金参千元也

玉井 忠臣 西条市

高橋 三郎 西条市

伊予稲荷神社 伊予市

重松 守文 松山市

高岡 宇作 上浮穴郡

垂水 亘 今治市

大岡 益子 新居浜市

阿沼 美神社 松山市

☆一金貳千元也

十亀 司老 要条市

大野 民之助 宇和島市

河田 誠章 大洲市

尾上 一良 松山市

武智 圭邑 松山市

広川 栄太郎 今治市

山下 幸伸 松山市

☆一金壹千円也

絹笠 保 北宇和郡

玉井 正素 松山市

中西 明 松山市

菅原 勤 喜多郡

三瀬 義忠 東宇和郡

近藤 司朗 東宇和郡

井関 五十鈴 東宇和郡

渡辺 光孝 東宇和郡

平石 安信 東宇和郡

私の思うこと

大野 民之助

宇和津彦神社は御祭神「宇和津彦大神」を奉斎申上げ、宇和の郡一宮国造と称され氏子数六千余を有する御社です。
古くより藩主領主が氏神と仰ぎ、其の信仰の篤さは現在の祭にも見られ、各町内よりねり出されるねり物は宇和島祭りの代表とまで云われています。御社は宇和島城「鶴島城」より東方に鎮座し、其の高さは城の高さと同位置に坐し、日夜毎藩主の拜された姿を偲ぶ事が出来ます。宇和島市内を一望出来、宇和島駅より南方、徒歩約五分の位置です。

私が奉仕申上げて足かけ四年、其の間、当社も他弱小神社同様、古来の発展の姿も無く、社の維持運営に窮して居ます。

私の思うには、何と神社界の弱事、その維持運営の学をも神社本庁は考えず、神社庁も手をつけず、ヤレ神学、ヤレ祭式、ヤレ教化等々と机上論議を神ながらの道と思つてか、まくし立てている事は滑稽にさえ思われる。私は此らの学問が必要で無いとは考へていないし、申す迄も無い事であるが、現在何方と有る「日本国」である社を維持する事を考える時、血と

順不同・敬称略

なり肉となる学問をなすべきであると考えている。其れら維持云々はその社の宮司の考えるべき処であると思われ、諸先生方もある事とは存じますが、根本の統一なくして神社が、又神社本庁が強力なるパワーを發する事が出来る筈も無い。其れは現在の神社界を見れば一目瞭然である。

戦後二十数年の時の流れに、二千六百有余年も保ち続けた日本國の心が、いかがわしい、価値哲学とか云う、学問とも覚束無い動物的、感情的な行動に支配され、正月や御祭の盛大さは、参拝者数であつたり賽銭の額面であつたり、又そのような社の宮司で第一級の先生であつたりする事は、現在の日本國民の心となり故里となり得る社とは云えぬばかりか、到底其のようなものには成り得る事は出来ず、新興宗教とか云うものに喰われて終う事は云う迄もない。少々僻みも強いかと思うが、これらすべてを反省し、青年神職である我々は、愛媛県神道青年会に結集し、現状を打破したいと御協力を伏して願ひ、祖先より受け継がれた真なる惟神の道を全うし、國民の心となり得る社造りを考えようではありませんか。

足跡

自昭和四十七年

四月一日

至昭和四十九年

四月一日

昭和四十七年

四月二日 神社にて「愛媛県

準備委員会」開催 有志八名出席

五月一日 神社にて第二回

發起準備委員会開催 有志一名出席

五月二日 高知市高知大神宮

での「四国ブロック研修会並

ソフトボール大会」に有志六名参加

八月二日 松山市伊予鉄会館

にて発会式

会員 一七名出席

来賓三島庁長他二四名出席、規約、役員、今年度活動

事項の決定

十二月五日・六日 石鎚神社豊友

会主催の祭式講習会に会員二名参加

十二月二日 初詣ポスターを

三、五〇〇枚作製し県下神社本務司宛発送

れた「一日神社本庁」に会員

一三名奉仕

四月二日 高松市にての神青

四国ブロック役員会に会長他

二名出席

五月三〇日 神社本庁にての神

道青年全国協議会総会に会長、副会長参加

六月二日・三日 松山市椿会

館並浮穴小学校グラウンドにて

神青四国ブロック研修会並ソフト

ボール大会開催

参加人員

愛媛二三名 徳島一三名

高知一四名 香川一一名

来賓、三島庁長、四国四県

神社庁、神青協本部等九名出席

九月九日 神社庁にて昭和四十七

年度総会開催 会員二三名

来賓、三島庁長他二名出席

十一月二日 松山市堀之内松

山市民会館にて開催された「全国神社総代会」に会員二名奉仕

昭和四十九年

一月一日 松山市道後の郵便貯

金会館にて新年互礼会開催、

会員二七名出席

来賓、矢野理事他一名出席

四月一日 会報第一号発刊

菊の御紋章の使用に

ついて、昨年一つの基

本として、「明治元年の

大政官布告」を参考に

するようにとの本庁通

達が出された。

明治元年三月 大政官布告に依

る菊御紋章の使用範囲

一、官国幣社の社殿の装飾へ千木・

堅魚木等）及び社頭の幕・提燈

二、官祭招魂社（現指定護国神社）

の社頭に用うる幕と提燈

三、文化財として指定されて居る

建物に從来より附着して居るもの

四、明治二年八月廿五日の大政官

布告による禁止以前に神殿に装

飾したもので其儘存置して居る

もの

五、明治元年三月の大政官布告以

前に既に皇室等より寄進せられ

た什器等に附着したもので其儘

保存せられているもの

☆発会当初「おたく誰？」「否！失

礼、私は〇〇神社の〇〇です。」

今ではチャラット見るなり「イ

ヤーと、どうも」の仲。

☆四国ブロック研修会。恒例年一

度の顔見世興業、夜は市内に分

散して県別研修会。学んで来た

ものは……。

☆ある感想。一日神社本庁の時、神

青会よくやっていたるな！全国

神社総代会の場合、神社庁一体

何をして居るの！

☆一月十九日の新年互礼会には新

会員八名参加、新年早々縁起が

手引

編集後記

陽炎が立ちのぼり、若芽の萌え出す春の日、皆様方には益々御健勝にてお越しのこととお慶び申し上げます。発会以来の懸案事項でありました「会報」第一号をお届け致します。本会も発会以来二年、周囲の暖かい日に育まれ会員の増加、各種事業等も順調に発展して参りました。今日の姿も三島庁長始め神社関係各位の御協力に依るものと厚く御礼申し上げます。

尚、発会以来会へ御芳志を寄せられた方には本紙を以って重ねて御礼申し上げます。

今後共、本会への活動に一層のお力添えを賜りますよう御願ひ申し上げます。

☆四国ブロック研修会。恒例年一度の顔見世興業、夜は市内に分散して県別研修会。学んで来たものは……。

☆ある感想。一日神社本庁の時、神青会よくやっていたるな！全国神社総代会の場合、神社庁一体何をして居るの！

☆一月十九日の新年互礼会には新会員八名参加、新年早々縁起が